



せせらぎ三島

ロータリークラブ
Seseragi-Mishima Rotary Club

SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2024～2025年度 RI会長 ステファニーA.アーチック
RIテーマ ロータリーのマジック

クラブテーマ「ロータリーの理解を深め、地域社会にロータリーのマジックを広めよう」

会長 仲原実圭 幹事 原 兄多

第1588回 例会
2024.12.13(金)晴

司会: 高村勝則君

ロータリーソング「我等の生業」 指揮: 杉山寿美子君

事務所 三島市泉町9-8 1F南
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352
<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 仲原実圭君

今週は8日の日曜日に、伊東西ロータリークラブ主催のインターシティミーティングが伊東市で行われました。昨年からのテーマである「伊豆半島のロータリーはひとつ」のコンセプトのもと開催されたIMでは、当クラブからは14名の参加。全体で175名の参加により盛大におこなわれました。



2024-25年度
静岡第1グループ
Intercity Meeting
ホスト 伊東西ロータリークラブ
2024.12.8

次年度のホストクラブは三島ロータリークラブです。



次年度ホストクラブ
三島ロータリークラブ

今年度の第1グループの合同奉仕は、昨年引き続きこども食糧支援ということでお米の贈呈が行われました。今年度はお米の高騰もあり、昨年より数量お減りましたがグループ全体で560袋のお米が各クラブより地域の社会福祉協議会やこども食堂に配布されました。当クラブは三島、三島西と合同で120ふくろのお米を三島市社会福祉協議会へ寄贈しました。



また9日の月曜日には三島RCと合同で、函南町の社会福祉協議会にお米120キロを寄贈しました。



今月のロータリー月間は「疾病予防と治療」です。ワクチンの普及活動をご覧ください。



幹事報告

幹事 原兄多君

1. 地区50年誌が届いているので前回欠席の方はお持ち帰りください。
2. 来週はクリスマス家族会です
3. 11月11日の4クラブ合同新年会の出欠をお願いします。
4. 赤い羽根共同募金にご協力をお願いします。

出 | 席 | 報 | 告 |

	出席総数	出席率	メイクアップ	修正出席率
前々回	30/39	76.92%	33/39	84.62%
今回	27/39	69.23%	会員総数	40名

欠 席 者

あなたが見えなくて残念でした。

新井君、伊丹君、大庭君、加藤(貴)君、杉橋君、鈴木君、土屋君、服部君、三輪君、宮澤君、矢岸君、渡邊君
渡邊君 (*出席免除会員の欠席者 片野君)

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

芹澤宏昌さん(米山君・杉山君のゲスト)
押田智子さん(おたまちゃん食堂)
滝川裕子さん()



スマイルボックス

入江俊介君: 来週はいよいよクリスマス例会です。大勢の人の前で話すのが苦手な私ですが司会頑張ります。

野村諒子君: 三島市議会が終わりました。「103万円の壁」が変わると三島市は178万円になった時19億円の税収が減ることがわかりました。でも働く人の為なんとかしなければと思っています。皆さんもご協力ください。

原兄多君: 本日、例会前に静岡第1グループの合同奉仕事業として三島3クラブ合同で社会福祉協議会にお米を寄付しました。職業奉仕委員会、社会奉仕委員会の皆様、ご協力ありがとうございました。

高橋麻子君: 先日、三男が無事に結婚しました。2人目の孫が産まれました。入院中の父が退院しました。

吉村真人君: 久しぶりの出席ですが、本日早退させていただきます。申し訳ございません。



社会奉仕委員会

委員長 遠藤修弘君

「おたまちゃん食堂」代表の押田智子さんをお迎えし、活動内容やその思いについてお話を伺いました。質問形式で進められたお話は、私たちの支援の意義をより深く理解する貴重な時間となりました。最後に、2週にわたり皆様ご協力いただいた食料物資の贈呈式も行いました。

【活動の背景】

Q: 子ども食堂を始めたきっかけや解決したい課題は?

A: 私は25年間幼稚園などで音楽活動が続けてきました。その中で、夕飯がお菓子だけ、朝は親が起きないためご飯がないという子どもたちの声を聞き、衝撃を受けました。この経験が活動を始めるきっかけです。解決したい課題は、子どもの貧困や孤食の連鎖、自己肯定感の低さ、生きる力の弱さを見守りながら支え、親子ともに安心して生きられる環境を作ることです。

【子どもたちの現状】

Q: 子ども食堂を利用している子どもたちや家庭の特徴・課題は?

A: ひとり親家庭、障害児を抱える家庭、不登校の子どもを持つ家庭が多いですが、最近は物価高騰の影響で一般家庭からの支援依頼も増えています。

Q: 印象深いエピソードは?

A: お弁当支援を通じて、野菜を食べる習慣が身についた子ども。会話のない親子に声をかけたところ、母親の目がうつろで悩みを抱えていたことが半明し支援開始。

・私のお弁当はやりませんと言っていた母親が、安心して涙を流し支援を受け始めた。

・DV被害からシェルターに避難しながら支援を受けている家庭もあり、子どもたちの居場所としての役割を改めて実感しています。

【支援の効果】

Q: 支援を通じて解消された課題や、子どもたちの成長は?

A: 支援前は食事が不安定な家庭が多かったですが、定期的に食事を取れるようになり、体が丈夫になったり、風邪をひきにくくなったとの声が聞かれます。また、心の安定により笑顔が増え、会話をするようになる子どもが多くなります。ひとり親家庭の3分の2は親との関係が断絶していますが、スタッフが親や祖父母のように話しかけ、温かい場所として機能していることが子どもたちの成長を支えています。

【ロータリークラブとの関わり】

Q: ロータリークラブの支援で印象的だったことは?

A: 田植え体験や、クラブの皆様が一丸となって物資を集めてくださったことが印象に残っています。本当に感謝しています。

Q: 今後の支援で期待することは?

A: お時間の許す限り、子どもたちと直接関わっていただければ嬉しいです。また、子どもたちが未来に希望を持てるような勉強会や、成長のきっかけとなる取り組みをぜひお願いしたいです。

【未来への展望】

Q: 子ども食堂の活動を通じて、社会にどのような未来を期待しますか?

A: 全国の子どもの食堂は10,866箇所に達し、公立中学校の数を上回りました。これは、子どもたちの居場所や多世代交流の場がますます必要とされていることを示しています。おたまちゃん食堂では、高齢者も参加し、「善意の貯金」として地域交流を深める場を提供しています。子どもたちだけでなく、地域全体が支え合うコミュニティを目指しています。

【締めくくり】

Q: 最後にロータリークラブの皆様へメッセージをお願いします。

A: 皆様のご支援心より感謝しております。おたまちゃん食堂は、子どもたちを「助ける」のではなく、伴走し、20歳までに生活を自力で組み立てられるよう支援を行っています。そして、卒業後には「恩送り」という形で社会に貢献できる大人に育つことを目指しています。これからも、子どもたちの未来を共に支えていただければ幸いです。本日はありがとうございました。